拓水

TAKUSUI
No. 654

4
April. 2011

発行　㈶兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

「ＪＦグループ兵庫 がんばろう東北被災地支援部隊」が兵庫の想いとともに出発（兵庫県水産会館）

東日本大震災情報

「東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部」の活動など

Report　被災地（岩手県・宮城県）からの報告
～支援部隊のレポート～

NEWS　平成22年度 漁協運動功労者表彰
～JF坊勢 上村組合長受賞 ～

「東北地方太平洋沖地震に係るJF組合長会議」開催

～兵庫県水産系統が一丸となって災害支援に取り組む～

3月17日（木）、東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部は、兵庫県水産会館で県・系統団体・JF組合長・加工協代表者ら約90名の出席を得て緊急組合長会議を開催しました。

大型スクリーンに地震関連のニュースが刻々と流れる中、出席者は開会に先立ち今回の震災犠牲者に対し黙とうを捧げました。開会にあたり、JF兵庫漁連 山田隆義会長が「被害は想像を絶するものであり、全国の漁業者と水産関係者約1,200万人が力を併せて対応していきたい。」と挨拶。続いてJF兵庫漁連 山口徹夫専務から被災地の状況説明と、阪神・淡路大震災の折、この度の被災県はじめ全国から多大な義捐金を頂いたこと、また、新たに定められた「全国漁協系統災害支援規程」について報告された後、義捐金の対応について協議がなされました。「阪神・淡路大震災時には大変お世話になった」等の意見も多く、結果、総額5,000万円（全国で10億円）を目標とし、県下組合員・系統団体等に呼び掛けることが承認されました。

地震のニュースが流れる、重苦しい雰囲気の会議室

犠牲者鎮魂と一日も早い復興に願いを込めて･･･　“黙とう”

「東北地方太平洋沖地震」義捐金募集について

本県における漁業を取り巻く環境が厳しい折、大変恐縮ではございますが、阪神・淡路大震災時に暖かい支援を頂きましたこと、また被災地の復興を出来るだけ支援していくためにも、皆様の温かいご支援を賜りますようどうかよろしくお願い申し上げます。

すでにご周知のこととは思いますが、下記のとおり、「東北地方太平洋沖地震」義捐金を募集しております。

兵庫県目標額	5,000万円
義捐金期待額	JF組合員　1口　1,000円（5口以上を目標にしています） JF・系統団体　1口 50,000円（1口以上を目標にしています） JF役職員　1口　1,000円（10口以上を目標にしています）
振込先口座	（金融機関）兵庫県信用漁業協同組合連合会 本店 （口座名義）東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部 （口座種類・番号）普通　NO.0574310
受付期限	平成23年4月末まで

東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部

JF兵庫漁連が被災地支援隊を派遣

～“兵庫の想い”を届けたい～

車に次々と積み込まれる支援物資

東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部では、被災地に救援物資を届けるべく「JFグループ兵庫がんばれ東北被災地支援隊」を結成し派遣しました。

支援隊は、JF兵庫漁連職員4名で結成、トラック・乗用車各１台ずつに「イカナゴのくぎ煮」、「焼き海苔」など食品のほか、軍手・トイレットペーパー、携帯電話充電器等の生活物資を積み込み、3月25日（金）９時に出発しました。

出発式には系統団体をはじめ、JF役職員等約50名が駆けつけ、はじめに支援本部 山田隆義本部長が「被災地は悲惨な状況であると聞いている。我々は阪神・淡路大震災の折、物心両面の支援を受けた。この度はその恩返しである。支援隊のメンバーは遠い道程とさらに気温が下がる予報もあり、厳しい条件ではあるが、頑張って頂き無事帰ってきてもらいたい。」と激励。続いて、支援隊を代表して宗和貴光さん（JF兵庫漁連）が「事故の無いよう現地まで着き、“兵庫の想い”を届けたい。」と決意を述べ、被災地に向けて出発していきました。なお、山田本部長、山口漁連専務は26日、別便で被災地に向かい支援隊と合流し、岩手・宮城の皆さんを激励しました。

支援隊の皆さん（左から藤本朋也さん、殿垣 学さん、宗和貴光さん 、小山大樹さん：全員JF兵庫漁連）

“兵庫の想い”を載せて出発！

【現地レポート】

25日9時過ぎに兵庫県水産会館を出発した支援隊は、名神高速→東名高速→首都高速→東北自動車道と車を走らせ、約19時間後の26日午前4時過ぎに初日の目的地である岩手県盛岡市に到着しました。走行距離は約1,100Kmと厳しいスケジュールでした。翌日、岩手県 花巻空港で、山田 隆義 支援本部長（JF兵庫漁連会長）、山口 徹夫 専務（JF兵庫漁連）と合流し、雪の舞う中、岩手県盛岡市のJF岩手漁連に向かいました。JF岩手漁連では杉本 功陽 専務と佐々木 義三郎 常務にお会いし、お見舞いを申し上げるとともに、ようやく壊滅的な被害にあった沿岸部にも燃料が届くようになったことや、県内被害の状況についてお聞きすることが出来ました。なお、支援物資は浜まで運ぶことが出来なかったため、ここでお渡ししました。

ＪＦ岩手漁連にてお見舞いを申し上げた

次に向かったのは、JFみやぎの本部がある宮城県石巻市でした。そこには、石巻が近付くにつれ変化していった風景がありました。津波が押し寄せた跡の残る建物、道路に積った泥、自衛隊が駐屯する公園など、ニュース等の報道で伝わる以上に、災害の爪痕、被害の大きさ、被災地の現実を目の当たりにしました。漁協本部では山田本部長からお見舞いを申し上げるとともに、支援物資の搬入を行いました。同漁協 阿部 力太郎 理事長、船渡 隆平 専務

支援物資の搬入風景

からは航空写真等を使った被災の状況等について説明を受けました。

JFみやぎで被災地状況の説明を受けました。

その後、一行は宮城県内では食料不足により宿が取れなかった為、かろうじて予約の取れた山形県天童市へ向かいました。ここまでの行程では、報道のとおり、ガソリン不足という事態に支援隊も巻き込まれ、ガソリンがない不便さを痛感しました。（この後、東京近郊に行くまでこの状況は続きました。）

翌日は午前9時頃に出発、途中、渋滞に何度か巻き込まれながら28日午前1時過ぎに無事戻り、総走行距離約2,400Kmに及ぶ支援隊活動は終了しました。

現地訪問後、山田本部長が神戸新聞のインタビュー（3月28日）を受けられました。
現場の状況について話された内容を要約し掲載します。

被害が大きくて、実際に現場を見ると言葉も出ないほどショックを受ける。復興についても何からしたらいいのか判らないような状況。とにかく阪神・淡路大震災とは比べ物にならないくらい広範囲で何もない状況。漁業については、阪神・淡路大震災の時、港は被害があったが漁船は１隻も失わなかった。今回の震災は、船、港、加工施設がない。なお、安否確認に時間が掛っているが、漁業者の亡くなった方は一般の方と比べまだ少ないそうだ。これは漁業者が地震＝津波を強く意識していたからであろう。

◆

今は気が張っているから被災地ＪＦからは強気な発言があったりもしたが、２～３ヶ月後に、この現実に本当の意味で直面した時はどうなるか心配する。

◆

宮城の状況も酷い。報道されないような悲惨な話もあった。県内漁業者（約10,000人）はおそらく２～300人くらいが亡くなったのでは。漁船は１万隻→200隻になっている模様で、ノリ養殖・カキ養殖施設はほぼ壊滅状態。

◆

漁業者の意見は２通り。１つは“こんな恐ろしい場所には住みたくない”、あとは“やはり漁業をしたいが、何もない”というもの。関係者の話では戻ってこない人が多いのではないかと思われる。

海にはガレキが浮いているが、撤去する船は救助・支援活動中で無い。また海底に沈んだガレキ撤去についても同じ。ダイバーによると“ニゴリがひどくよく見えないが、車、家屋など沢山沈んでいる”とのこと。

◆

三陸道が仙台空港の近くにある。盛り土で造ってあった為、防波堤の役割をしたのか、それを境に海側、山側では状況が大きく変わる。海側は壊滅状態。

◆

ガソリンは報道のとおり供給不足。被災県で約100台のローリー車が破損。他県から応援を求めても間に合わない。近隣の山形県も不足している。ガソリン20Lを給油するのに前日から何キロも列を作って並んでいる。

◆

救援物資は避難所優先に配布されているようで、漁業関係の現場まで届かない。慰問時でも朝晩は冷え込みが強かったが、ＪＦみやぎでは衣類が不足していた。

◆

冠水したままの場所も多く、足場も悪いため長靴が必要だが不足している状況である。（この件について、帰路、山口専務からＪＦ全漁連へ対応を要望し、またＪＦ兵庫漁連の在庫約100足を配送手配した。）

「イカナゴ売上金」を義捐金として寄付
～東二見商店街とＪＦ東二見が取り組み～

ＪＦ東二見 岸 利夫組合長と明石市の二見町商店会（代表：木下正光氏）は、3月22日（火）、兵庫県水産会館にて生イカナゴ販売での収益金と買い物客からの寄せられた義捐金の合計932,076円を、東北地方太平洋沖地震ＪＦグループ兵庫支援本部 山田隆義本部長（JF兵庫漁連会長）へ手渡しました。

この取り組みは、東北地方太平洋沖地震発生直後、岸組合長が同商店会へ提案し、収益金は漁期当初からの14日分、イカナゴの量にして約7,000Kg分に相当するもので、約76万円が寄せられました。また、販売時に設置していた募金箱は約17万円もの募金があり、木下代表は「皆さんのご協力が多く得られたことに感謝したい。」、また、岸組合長は「阪神・淡路大震災時には暖かい支援を頂いたことが励みになった。同じ漁師仲間として出来ることはしてあげたいという思いから行った。阪神・淡路の時と同様、今回も必ず復興してほしい。」と述べられた。義捐金を受け取った山田隆義本部長は「被災地をテレビで見た時、大変なショックを受けたが、私たちが阪神・淡路大震災の恩を返す時だと思いました。今回、早速に商店会の皆様から寄せられた義捐金を大変嬉しく思います。これは日本人の“助け合い”の精神の表れであり、全漁連と行っている支援体制の中で有効に活用させて頂きます。」と謝意を示されました。

寄せられた義捐金を受け取る山田本部長

義捐金を届けられたお二人（左から岸組合長、木下氏）

ＪＦ兵庫漁連職員互助会レク活動費から義捐金
～ＪＦグループの仲間として支援したい～

兵庫県漁連職員互助会

3月24日（火）、兵庫県水産会館にて兵庫県漁連職員互助会（澤井 徹 会長、会員138名）は緊急の役員会を開き、同互助会の積立金のうち500万円を東北地方太平洋沖地震の義捐金に充てることを互助会総会に諮る旨、確認しました。総会は30日（水）に開かれ、原案通り決定されました。

この積立金は、各職員から給与の一部を互助会費として毎月徴収し、その中から職員旅行のために準備しているものです。役員会では「被災したのは同じ海で仕事をする仲間・漁業者である。また、我々は阪神・淡路大震災の時に大変お世話になっているので、何かしなければいけないといった会員からの声がある。」との意見が出され、職員からは大いに賛同を得ました。この義捐金は、今後、兵庫の支援本部からＪＦ全漁連を経て被災地の漁業者の支援に役立てられます。

“東北地方太平洋沖地震チャリティーイベント“を開催
～売上金全額を震災義捐金に～

「同じ漁業者として少しでも役に立ちたい」と、ＪＦ家島・坊勢・室津・兵庫漁連等が集まって3月12日（土）、姫路市大手前公園で「東北・関東地方太平洋沖地震チャリティーイベント」が開催されました。

このイベントは当初、イカナゴ販売イベントとして企画されましたが、急遽、売上金全額を義捐金とするチャリティーイベントに変更して行われました。地震の翌日ということで、参加者は少ないのではと心配されましたが、開始直後から多くの方が、即売コーナー・無料試食コーナーのほか、「イカナゴのくぎ煮教室」にも参加され、チャリティーにご協力頂きました。また、各即売コーナーには“募金箱“を設置するだけでなく、会場内でスタッフが募金への協力を呼び掛けたりしました。その結果、集められた売上金等の合計額1,191,811円は、3月14日、東北地方太平洋沖地震ＪＦグループ兵庫支援本部へ義捐金として渡されました。

一日も早い復興をお祈りしております

多くの人が詰め掛けたJF坊勢のコーナー

イカナゴ・ホタルイカ義捐金募集活動始まる！
～ＪＦ淡路町･ＪＦ浜坂町の取り組み～

ＪＦ淡路町（東根 壽組合長）では船びき網協議会が中心となり、浜に水揚げをしたイカナゴ1カゴに対して漁業者が300円、また、入札業者に対しては落札分の1カゴに対して100円を、今回の震災義捐金とする取り組みが行われています。同組合は阪神・淡路大震災時に全国から支援が寄せられ「助けて頂いた」という思いから、いち早く募金活動を行うことを決められ、3月14日（月）から集められています。

また、ＪＦ浜坂町（川越 一男組合長）では、最盛期を迎えているホタルイカ漁において、1箱につき10円を義捐金として積立てていく活動を行っています。3月22日（火）から始まったこの取り組みは、目標額を100万円とし、このまま順調に漁が続けば達成する見込みで4月30日まで続けられます。

どちらも豊漁によりたくさんの義捐金が被災地に届くことを期待します。

但馬地区ズワイガニ漁終了 ―― JF兵庫漁連

但馬地区の冬の風物詩であるズワイガニ漁が、3月20日（日）で漁期を終え、最終セリが22日（火）、柴山漁港と浜坂漁港で行われました。

今漁期の総漁獲量は1,417トン（前年比106.1%）で前年度漁獲量を上回りました。オスガニ（松葉ガニ）・メスガニ（セコガニ）・ミズガニ（若松葉ガニ）の漁獲量はそれぞれ474トン（前年比89.9%）・630トン（前年比121.5%）・313トン（前年比108.4%）でした。

総漁獲金額については、最も単価の良いオスガニが前年度を下回ったことから、全体の単価が下落し約32億4千万（前年比90.3%）となりました。

今後、但馬地区の沖合底曳漁は、ハタハタ、エテガレイ、ホタルイカなど"春の魚"中心の水揚げが5月末日まで続きます。

最終セリの様子

漁協運動功労者に 上村 廣一氏（JF坊勢）が選出されました！

2011年度 漁協運動功労者表彰受賞

JF坊勢　代表理事組合長

上村 廣一 氏

JF全漁連は2011年度の漁協運動功労者32人を決定し3月8日（火）に発表しました。本県ではJF坊勢の代表理事組合長 上村廣一氏が、的確な判断と卓越した行動力で組合の経営基盤強化に貢献した功績を認められ、受賞されました。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）について

阪神・淡路大震災では、住まいを失った多くの被災者が住宅再建を余儀なくされました。
当時は公的な支援も融資や利子補給に限られており、住宅再建は自助努力が原則でした。
その後、平成10年に被災者生活再建支援法が成立したものの、住宅再建支援としては十分ではなかったため、兵庫県では住宅所有者相互の助け合いの仕組みを提案し、「兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）」を平成17年９月に創設しました。
来るべき災害に備え、震災から学んだ「助け合いの大切さ」を自然災害への備えに生かしたフェニックス共済にぜひ加入しましょう。

兵庫県が実施する信頼と安心の制度　兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）

■ 小さな掛金で、しっかり保障

負担金

年額5,000円

加入初年度は
（月500円×月数（上限5,000円））

※複数年一括支払割引もあります。
※支払いは、銀行・郵便局の口座振替またはクレジットカード払いが利用できます。

自然災害発生

給　付　金

市町が発行するり災証明で半壊以上の被害認定の場合

給付金	給付対象	給付額
再建等給付金	再建・購入	600万円
補修給付金	全壊で補修	200万円
	大規模半壊で補修	100万円
	半壊で補修	50万円
居住確保給付金	再建・購入・補修をしない場合	10万円

※既に補修等で給付金を受けた後でも、被災から５年以内であれば、再建・購入される場合には600万円までの差額が給付されます。
※県外での再建・購入の場合、給付額は300万円になります。
※賃貸住宅等については、別途制約があります。

家財再建共済制度（平成22年8月から開始）

① **負担金**　**年額1,500円**

加入初年度の共済負担金は、150円×次の３月までの月数（上限1,500円）。
※住宅と家財の両方に加入すれば、家財再建共済負担金を年間最大500円割引

② **給付金**

市町が発行するり災証明で床上浸水以上の被害認定の場合

給付金	給付対象	給付額
家財再建共済給付金	全壊で家財を補修・購入	50万円
	大規模半壊で家財を補修・購入	35万円
	半壊で家財を補修・購入	25万円
	床上浸水で家財を補修・購入	15万円

住宅再建共済・家財再建共済制度の特長

- あらゆる自然災害に対応
- 住宅再建共済は県内に家を持つ人、家財再建共済は県内に居住する人が対象
- 地震保険や他の共済制度に加入していても OK
- 定額負担で定額給付

お問い合わせ　**公益財団法人兵庫県住宅再建共済基金**　TEL 078-362-9400（平日9:00～17:00）
http://web.pref.hyogo.jp/wd34/phoenixkyosai.html

※　兵庫県内の郵便局窓口でも加入申込みを受け付けています。（郵送・インターネットでも申し込めます。）

JA兵庫六甲の飯原さんが県知事賞

JA営農指導員研修大会～活動実績発表会～を開催

ＪＡ兵庫中央会は県農業会館で２月28日、「ＪＡ営農指導員研修大会～活動実績発表会～」を開催しました。この研修大会は、ＪＡ営農指導員やＴＡＣが一堂に会し、課題解決に向けた取り組みを進めることを目的としたもので、関係者約95人が出席しました。活動実績発表では、９ＪＡから９人が発表。ＪＡ兵庫六甲の飯原愛子さんの「神出モロヘイヤ部会の活動」が最優秀となり兵庫県知事賞に選ばれました。

飯原さんは、「こうべ旬菜」ブランドに認定されているモロヘイヤについて部会で３つの重点目標を立て実践しました。「産地の拡大」では、新規会員を確保し、出荷実績を1.5倍に増加させました。「栽培技術向上」では、部会員とのコミュニケーションの中から品種の選定や栽培技術の向上を行いました。「販売促進」では女性を中心とした意欲的な部会の特徴を生かし、モロヘイヤの料理書をつくり、地域の夏祭りでＰＲしました。これら活発な活動が発表の端々に散りばめられており、部会員のあふれる力を上手く活用し、明確な目標を持って、活動していた点が評価されました。

講評で、兵庫県立農林水産技術総合センターの和田眞由美所長が「今日発表されたすばらしい内容は、発表者だけでなく、多くのスタッフが連携して、生み出された成果だ」と述べました。

他の受賞者は以下の通りです。（敬称略）
▷優秀賞・ＪＡ兵庫中央会会長賞＝山本健太（ＪＡ丹波ひかみ）▷優秀賞・ＪＡ全農兵庫運営委員会会長賞＝中野久仁美（ＪＡ兵庫南）▷審査委員長特別賞＝垣岡雅人（ＪＡたじま）、栄昌祐（ＪＡあわじ島）

兵庫県知事賞に選ばれた飯原さん

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

「まもりんピック姫路」で事業を紹介

姫路市民共済生活協同組合では、3月6日（日）に姫路市立中央体育館にて開催された、姫路市消防防災運動会『まもりんピック姫路』に後援し、組合事業を紹介しました。

「まもりんピック姫路」は、市民と消防が一体となり、競い・楽しみながら姫路市の防災力の向上を目指す運動会です。また競技だけでなく、和太鼓の演奏や姫路市消防音楽隊のドリル演奏などもありました。

姫路市民共済生協はこの運動会の会場で、専用ブースを設け、来場される方々にパンフレットや粗品の配布をおこない、積極的に組合事業のPR活動を実施しました。

当生協のブースへも多くの方が来られ、共済についてのご質問などいただき大盛況でした。

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文
遊方子

貝を旬に食べる

◆全ての生命は海から生まれたという。人間の血液組成は海水のそれと似ており、海の幸である魚や貝・海藻を食べることは、人の基本的な要求かも知れぬ。貝は良質の蛋白質源で鉄やカリウムを多く含み、血中のコレステロール値を引き下げるタウリンも豊富である。筆者の好きな帆立て貝は、冬から早春の頃が特に美味しく、癖のない柔らかな貝柱を刺身で頂くと絶妙の舌触りが楽しめる。干した貝柱も珍味である。無線業務で夜勤をした日は、その貝柱が入った中華炒めを出前して戴いたが、この旨味は他の食品では出せぬと思った。

◆貝は原始時代から食材として重要だった。多くの貝塚から、その痕跡を窺がうことが出来る。我が国は四囲が海洋で、日本海を寒流、太平洋側を暖流に洗われているため、北方系の貝と南方系の貝が分布しており、日本近海で約六千種類が生息する、世界最多の貝の国なのである。新鮮な貝が入手できるため、旬に美味しく食べられる。古くから貝の恩恵を受け活力源としたから、貝料理のメニューも実に豊富で楽しめる。最近は、養殖物が殆どで周年通して出回るため、旬は二の次になっているが、美味求心の今こそ、旬に味わいたい。

◆貝の旬は晩春から初夏がアワビ、秋口から冬にかけてはハマグリとなる。サザエは３～５月の春の味、赤貝は12月から２月、バカガイは寒中から春先が食べ頃となる。カキは冬から早春がいい。Ｒのない月は食べるなというが、５～８月には食中毒が怖いだけでなく、グリコーゲンが激減するため美味しくない。岡山県日生のカキ入りお好み焼きは、同漁協で水揚げしたカキの身がプリプリとして実に味が良かった。兵庫のカキも赤穂や相生で養殖、毎年カキまつりを催して活気がある。海のミルクと讃えるカキは冬場に食したい。但馬の民宿で一泊した時、松葉蟹と一緒に出たエッチュウバイも絶品の味だった。

◆シジミは小さいが美味しい貝である。淡水や汽水域に棲むヤマトシジミは宍道湖の特産品、セタシジミは琵琶湖が知られる。旬は土用シジミと寒シジミというが、セタシジミは夏が善く、その他は冬を旬とする。あの旨みは豊富なコハク酸から生まれる。身を味わうなら熱湯に入れてサッと煮がいい、煮過ぎや温め直しは旨みが落ちる。エキスを味わうなら味噌汁が最適で、栄養的にも最良といえる。少し辛めの味噌がよく合うようだ。貝類は調理以前の砂出しが肝要で、シジミは１％の塩水に４時間浸ける。潮干狩りしたアサリは３％の食塩を使い砂抜きし、６時間ほど空中に放置して調理する。抜群に美味しい。

桜樹と城壁

大輪田塾だより

「鮮度保持」と「環境保全」

大輪田塾3月講座は、15日(火)に開催されました。

開会前、東日本大震災での多くの犠牲者に対し参加者一同が黙とうを捧げました。講義はまず、「ちょっと科学の目で見た水産物の鮮度保持」をテーマに、兵庫県農林水産技術総合センター森 俊郎主任研究員から鮮度・保存方法等について分かりやすく説明されました。また、講義２は「環境保全に私たちが出来ること」と題して生活協同組合コープこうべ 宮地 毅統括部長から、コープこうべが行っている環境保全事業について詳しく解説いただきました。

塾生は、鮮度保持・保存方法については魚価向上のヒントになるのではないかと考え、活発な質問が出されました。また、環境保全については、宮地氏は「大事なのは身近で出来ることから始めていくことであるが、環境に配慮した運動でも一般からの理解が得難いものなどは、徒労感を覚えることが多い。広く運動を進めていくには、国などの大きな力が必要となり、広く国民運動として展開していくことが良いと思う。」と講座を締められました。

講義1「ちょっと科学の目で見た水産物の鮮度保持」

講義2「環境保全に私たちが出来ること」

表紙の言葉

「東北地方太平洋沖地震ＪＦグループ兵庫支援部隊」の出発

今回の地震･津波の被害で亡くなられました皆様のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました方々に対し心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を切にお祈り申し上げます。

この度、「何か出来ることはないか」との強い想いから実現した東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援部隊。写真の2台には、系統団体から持ち寄られた支援物資と「兵庫の想い」が載っています。阪神･淡路大震災の時に寄せられた支援に対し、少しでも恩返しがしたいという“兵庫の想い“は片道1,100Km以上の行程を経て無事、岩手県･宮城県のJFグループへ運ばれました。これからも被災地復興と日本の漁業のために共に頑張りましょう。

拓水 TAKUSUI 4 April

発行：財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336